## 2017年11月12日

## 福音書からのメッセージ

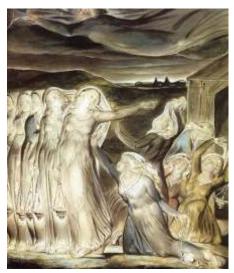
だから、目を覚ましていなさい。あなたが たは、その日、その時を知らないのだから。 (マタイによる福音書 25 章 13 節)

今週の福音書は、10人のおとめのたとえです。王子の婚宴を待つ10人のおとめがいました。そのうち5人は賢いおとめで、残りの5人は愚かなおとめだったそうです。賢いおとめはいつ婚宴が始まってもいいように、予備の油を準備していました。ところが愚かなおとめは、予備の油を持っていなかったため、婚宴に間に合わず、その祝いの席から締め出されてしまったという物語です。

イエス様は、天の国とはこのようなものだと言います。そして「目を覚ましていなさい」と語られます。わたしたちはこのたとえから、どのようなメッセージを受け取ればよいのでしょうか。

この物語を読んで、自分はどちらのグループに属していると思いますか。自分は賢いおとめの一人だと思っているなら、それでいいでしょう。しかしいつも準備をして待つことのできない自分に気づく人は、多いのではないでしょうか。

いつも目を覚ましているということは、 心をいつも神さまに向け、いつどのような ときにも神さまの声に耳を傾けることだ と思います。しかしわたしたちは、本当に 弱いところを多く持つ一人一人です。完全 な人など、この世にはいないのではないで しょうか。だとしたら、愚かなおとめであ るわたしたちは、天の国から締め出される しかないのでしょうか。



イたと向のしないではを、わですないですがいるですがなっているでは、いいではをできまれたのでは、いいではをできないでは、いいではをかったがあるができないではをかっているという。

かすために来られたのです。締め出すのではなく、天の国に招くために十字架につけられるのです。

イエス様はわたしたちに、準備をするように言われます。油を用意するように言われるのです。イエス様は暗闇からわたしたちを導き出す光として、この世に来られました。わたしたちがイエス様を受け入れるということは、わたしたちが手にするともしびが、いつまでも燃え続けるということです。用意している油が、いつまでも尽きないということです。

わたしたちの備えとは、そういうことではないでしょうか。24 時間、いつどのようなときも神さまに心を向け続けることは、難しいかもしれない。しかしイエス様を信じ、救い主として受け入れる。そのことで、わたしたちは天の国の祝宴に招かれるのではないでしょうか。

## 桃山基督教会

 $\mp 612 - 8039$ 

京都市伏見区御香宮門前町 184 LL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nskk.org <教会ホームページ>

http://momoyama.hannnari.com/